防犯パトロール隊かつやま（山口県）

“子供達”へ明るい未来を

安全・安心で住み良い町づくりを目指して

1　活動地域の概要

下関市は、本州の最西端に位置し三方を海に囲まれ水産業、工業、農業、林業、観光業と多岐にわたり活力みなぎる人口およそ284,000人の中核都市です。当隊が日々活動している「勝山」と呼ばれる地域は、48 の町で構成される人口およそ 25,300 人（世帯数 11,300 戸）の町です。その中で、新下関駅周辺の 14 の町（人口 8,700 人、世帯数 2,500 戸）が当隊の主な活動の舞台となっています。

2　団体結成の概要

平成 17 年、町内で生じた連続痴漢事件を契機に町内の見回りを開始しました。その翌年からは、町内で放置されている空き缶などのゴミの収集等も加え、こうした活動が契機となり、平成 19 年には、駅周辺の町内からも同士を募り、4 町 17 名で「防犯パトロール隊かつやま」を正式に結成致しました。その後、毎年少しずつ隊員が増加し、平成 23 年 6 月現在では 14 町 34 名となり活動の輪が大きく広がっています。

3　活動の特色

当隊は、「子供達へ明るい未来を」をモットーに安全・安心で住み良い町づくりを目指して、毎日欠かさず活動をしています。このため、下関警察署（勝山交番）、下関市役所（勝山支所）等とは、常に色々な点で情報提供を受けたり、お願いごとをしたりと連携を密にしています。当隊の特徴は、隊員各自が興味ある分野で、自分の好きな時間帯に、自分の好きなスタイルで自由に取り組むという仕組みをとっていることです。こうした活動方法は、隊員にとっても無理がなく、住民の防犯や住み良い環境作りに対する関心度を高める上でも効果的であると考えています。また、パトロール中に不審物を発見したり、異常な状況に遭遇した場合は、決して無理をせず直ちに警察署あるいは 110 番へ連絡するように徹底しています。

4　活動内容と成果

(1)　登下校時の児童・生徒の見守り活動

パトロール区域内には、小学校、中学校が１校ずつあります。児童・生徒を通じて各家庭に配布されている行事予定表あるいは関連の資料を参考に、登下校時の時間に併せて、確実かつ効果的な見守りを毎日行っています。

(2)　駅周辺に設けられた駐輪場の整理

新下関駅(新幹線側)周辺には７か所に駐輪場が設けられています。過去３年間のデータによると自転車・単車等の整理台数は、整理開始直後から急速に減少し、およそ２年間で一定値を示すようになりました。この現象は、利用者の意識の向上と自発的協力姿勢の現れと推測しています。

(3)　町内清掃と見回り

町内の清掃効果については、公園や道路に捨てられた缶、ビン、ペットボトル等を集め、その数で調べた結果、収集開始直後から大きく減少し、駐輪場の整理の場合と同様、およそ２年間で一定値を示すようになりました。この現象は、住民の環境への意識(関心度)が高まったためと推測しています。

(4)　公園の見回りと安全点検（区域内の４箇所）

パトロールを兼ねて毎日ゴミ収集を行っています。それに加えて、公園等の安全点検を行い、市当局と連携し、公園内に死角ができないような対策を講じています。

(5)　活動の活性化～大学生ボランティアとの連携

今年５月に地元の東亜大学で学生による防犯ボランティア団体が結成され、警察署を通じて、合同活動に取り組んでいます。合同活動を通じ、大学生の若さと活力に接することで、隊員が刺激を受け、士気高揚につながり活動の活発化に効果があると感じています。

(6)　調査活動と改善措置

ア　落書きの除去

パトロール中に落書き箇所をチェックし、除去日を決めて一斉に除去しています。

イ　貼付物の除去

貼付物については、パトロール中に発見次第撤去することとしています。

ウ　歩行者用地下通路の清掃等（区域内の４箇所）

地下道は、犯罪等の温床となりかねないため、清掃を兼ねて常に見回るなど注意しています。

エ　不法投棄物の撤去

公園、神社裏、川土手、一般道などで、放置された自転車等をパトロール中にチェックし、自治会主催により一斉撤去日(毎年１回)に撤去しています。

(7)　情報収集と広報活動

警察署、市役所等からの情報は、速やかに隊の活動に反映させ、効果的なパトロールが行えるようにしています。

(8)　活動報告書の作成

毎年、活動内容やゴミの収集状況等の分析をまとめた報告書「住み良い町づくり応援活動」を作成し、会員を始め関係機関や団体等に配付しており、報告書を通じて住民に私たちの活動を知ってもらうことで、隊員の士気高揚につながっています。

(9)　挨拶、声かけ運動

防犯に対する意識の向上や住み良い町づくりを目指して、挨拶と声かけを積極的に行っています。

5　今後の取組み

幅広い地域から一層の隊員の増強を図り、住民の防犯に対する意識(関心度)を高め、安全・安心で住み良い町作りを推進することとしています。

防犯パトロール隊かつやま（山口県）

山口県下関市から参りました防犯パトロール隊かつやまの井上でございます。それから、パソコン関係でお手伝いをいただく、当パトロール隊会計担当の東さんです。よろしくお願いいたします。

「安全・安心で住み良い町づくりを目指して」……これが私たちの活動テーマです。

これより、私たちの活動地域や団体結成の経緯、活動内容、今後の取組等を順を追ってご説明していきたいと思います。

活動地域の概要

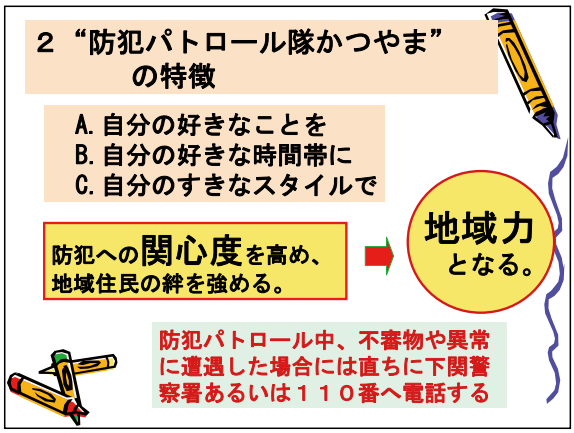
私たちが活動している下関市は、本州の最西端に位置する、人口およそ284,000人の中核都市です。下関市は、水産業、工業、農業、林業、観光業と、多岐にわたり産業が盛んな活力あふれる町です。その中で、私共が活動している「勝山」と呼ばれる地域は、48の町で構成される人口およそ25,300人の町です。パトロール地域である新下関駅周辺は、14の町で構成される人口8,700人の地域です。

団体結成の概要

平成17年10月22日、町内の見回りを開始しました。そのきっかけとなったのは、町内で発生した中学生、高校生に対する連続痴漢事件です。実はその当時私は自治会長をしており、対策を思案する中で、まずは町内を見回ることからはじめてみようということになりました。ところが、実際に回ってみますと、何も起こらない。何もないのは一番うれしいことなのですが、段々何のために回っているのか、自分たちは何をしているのか、と疑問が沸いてくるようになりました。それではせっかくみんなで見回る意味がないということで、何かデータでも取ってみるかということになり、天候・気象のデータを取りはじめました。そして、平成18年1月24日から、町内のゴミ収集もはじめました。平成18年5月16日からは、捨てられた空き缶、ペットボトルなどの数を調べはじめました。さらに、空き缶やペットボトルが捨てられるのは、天候と関係があるかもしれないということで、調べたデータの中にその日の新聞の天気予報欄の情報も加えるようにしました。それを続けていたわけですが、自分の町内だけのデータではあまり説得力がないということで、少しずつ調べる範囲を広げ、データの数を増やしていきました。

このような経緯により、平成19年8月29日に「防犯パトロール隊かつやま」を4町17名で発足しました。その後、毎年少しずつ隊員が増加し、平成23年6月現在では14町34名に拡大。これならば、説得力のあるデータが取れるということで、盛んにデータを取って分析をはじめています。

活動の特色



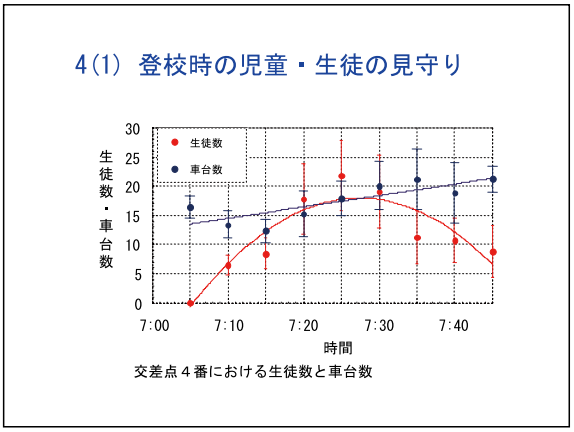
自分の好きなことを、自分の好きな時間帯に、自分の好きなスタイルで。これが「防犯パトロール隊かつやま」の活動方法です。制約なく自由にやってくださいということで、自主性に委ねた活動を行っています。ユニフォームを着て町を回れば、そのことが抑止力になります。パトロールを行うことで防犯への関心度を高め、地域住民の絆を強めることができれば、それが「地域力」となって防犯にも貢献すると考えています。ただし、こうした活動を続けていくと防犯パトロール中に不審物、異常な状況に遭遇することが懸念されます。その際は、直ちに110番通報する、絶対に自分で処理してはいけないということを徹底しています。

活動内容

地域力を育て、犯罪を生みにくいコミュニティづくりに関連するものは何でもやるということを基本方針として、次の活動を展開しています。

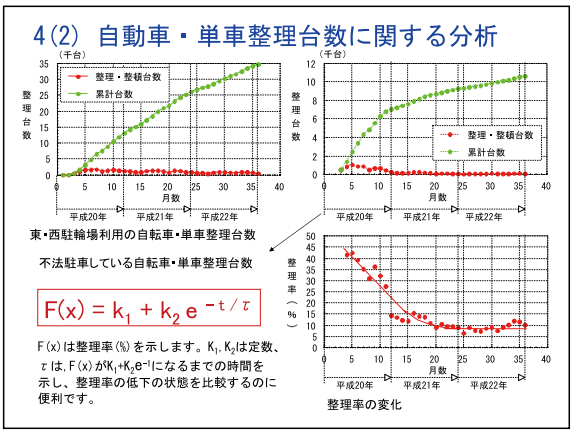
(1)　登下校時の児童・生徒の見守り活動

パトロール区域内には、小学校、中学校が1校ずつあります。児童・生徒を通じて、各家庭に配付されている行事予定表などを参考にして登下校時間に併せ、また、区域内の登下校時間の道路状況を分析しながら、児童・生徒の安全を確保できるよう確実かつ効果的な見守りを毎日行っています。子ども達の横断する交差点における子ども達の人数と車の通過台数を時間に対して分析した結果、７時20分から30分にかけて特に注意が必要となることがわかりました。



(2)　駅周辺に設けられた駐輪場の整理

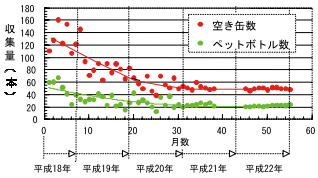
新幹線の新下関駅は在来線も入っているため、多くの通勤・通学の利用者があります。駅周辺には7か所に市が認めた駐輪場があり、これらの整理を行っていますが、過去3年間のデータによると自転車・単車等の整理台数は整理開始直後から急速に減少し、およそ2年間で一定の数値を示すようになりました。また、鍵の掛け忘れや防犯登録されていない自転車には警察署から頂いた防犯診断カードを、また、駐輪マナーの悪い自転車、単車には市役所から頂いた通行の迷惑カードをつけることにより、利用者に協力をお願いしています。



(3)　町内清掃と見回り

町内の清掃効果については、平成19年から22年までの4年間で、89.7%の清掃率、ほぼ毎日清掃を行っています。公園や道路に捨てられた缶、ビン、ペットボトル等の数を調査した結果、収集開始後から大きく減少し、大きな効果が得られてます。そうした私たちの活動に触発されて、子どもたちが自発的に公園のトイレの清掃をはじめたというようなうれしい話題もございます。

4(3)　町内清掃の効果



秋根本町２丁目町内で収集した空き缶、ペットボトル数

$$F(x) = C_1 + C_2 e^{-t/T}$$

F(x)は、収集した空き缶数、ペットボトル数を示します。C_1, C_2 は定数で、Tは、F(x) がC_1+C_2/eになるまでの時間を示し、F(x)値の低下の状態を比較するのに便利です。

(4)　公園の見回りと安全点検（区域内の4箇所）

4(4)　公園の見回りと安全点検

子供会による公園清掃

企業の方による清掃

子供会による公園トイレの清掃

パトロール隊による公園清掃

パトロールを兼ねて毎日ゴミ収集を行っています。それに加えて、公園等の安全点検を行い、市当局と連携し、公園内に死角ができないような対策を講じています。公園の清掃に関しては子ども会や公園周辺の企業の方々の応援も受けています。子どもが使う公園という性質上、使用目的としてふさわしくないと考えられる、ゴルフの練習、硬式野球の練習、園内での単車の使用などを行っている人には、注意を促し協力をお願いしています。

(5)　活動の活性化～大学生ボランティアとの連携

今年5月に地元の東亜大学に学生による防犯ボランティア団体が結成され、警察署を通じて、合同活動に取り組んでいます。大学生の若さと活力に接することで、隊員が刺激を受け士気高揚につながる効果があると感じています。

(6)　調査活動と改善措置

まず、落書きの除去です。

このスライドは、公園に設置されているパーゴラに書かれた落書きの除去作業風景です。パトロール中に落書き箇所をチェックし、除去日を決めて一斉に除去しています。

次に、貼付物の除去と不法投棄物の撤去です。

このスライドは、歩行者用地下通路入り口や公園の金属フェンスへの貼付物です。貼付物については、パトロール中に見つけ次第撤去しています。

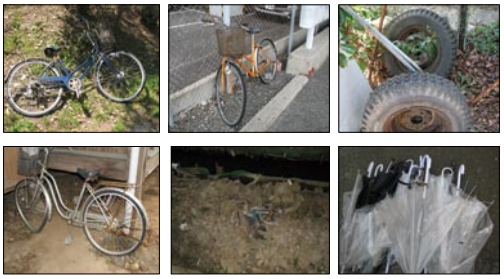
次に、歩行者用地下通路の清掃等（区内の4箇所）です。

地下道は犯罪の温床となる危険があるため、清掃を兼ねて常に見回るなど注意しています。

また公園、神社裏、川土手、一般道などに放置された自転車などをパトロール中にチェックし、自治会主催の一斉撤去日に撤去しています。

4(6)　調査活動と改善措置
ア　落書きの除去

4(6)　調査活動と改善措置
エ　不法投棄物の撤去



⑺　情報収集と広報活動

情報収集と広報活動は、警察署や市役所等からの情報を速やかに活動に反映させ、効果的にパトロールを行っています。

⑻　活動報告書の作成

毎年、活動内容やゴミの収集状況等の分析結果をまとめた報告書「住み良い町づくり応援活動」としてまとめ、会員を始め関係機関や団体等に配布しており、報告書を通じて住民に当隊の活動を知ってもらうことで、隊員の士気高揚につなげています。

4（7）情報収集と広報活動
警察署や市役所等からの情報は、速やかに活動に反映させ、効果的にパトロールを行っています。

4（8）挨拶、声かけ運動
挨拶と声かけ運動を積極的に行っています。

4（9）活動報告書の作成

⑼　挨拶、声かけ運動

防犯に対する意識の向上や住み良い町づくりを目指して、挨拶と声かけを積極的に行っています。

今後の取組

今後の取組としては、児童・生徒の見回り箇所を増やす、挨拶・声かけ運動の継続、当会で決めている月の最終週の交通安全週間の継続、ポイ捨て・犬のフンの掃除・防止運動、落書きの除去作業の継続、歩行者用地下通路の見回りを兼ねた清掃の継続等の活動を行っていきます。

そして、防犯に対する意識の高揚、関心度を高めることが、「安全・安心な住み良い町づくり」を目指すことになり、また、子どもたちへ明るい未来を築くことになると信じて隊員一同、毎日活動に励んでいきます。

●質問　先ほど、今年5月に東亜大学に学生の防犯ボランティア団体が誕生したことが紹介されていましたが、合同で活動することの効果というものは何かございますか。

○回答　5月にできたばかりで、まだ学生の皆さんの本当の実力は発揮されていない段階かとは思います。しかし、私たちとしては、大学生の若さや活力に接し、若い人たちの視点を学ばせてもらえるという点で大変刺激を受けていますし、隊員の士気高揚にもつながっています。今後は共に活動する中で、互いにデータを出し合って、より深いデータを作成していけるようにもしていきたいと思います。きっと私たちの素晴らしいパートナーになってくれるものと信じています。